

国際セミナーのご案内（国際交流委員会）

現代中国の幼児教育改革にみる教育公共性の変容 —「普惠型幼稚園」の普及を通して—

講師：劉煜（陝西学前師範学院幼児教育学院講師、国家留学基金委員会訪問学者）

司会：日暮トモ子（日本大学文理学部教育学科教授）

日時：2023年4月22日（土）13:30～15:00

開催方法：対面＋オンライン同時双方向のハイフレックス

会場：日本大学文理学部（東京都世田谷区桜上水3-25-40）本館5階 EMTL 教室

言語：日本語

共催：一般社団法人東アジア教育研究所、教育哲学会国際交流委員会

参加費：無料

申し込み：4月19日（水）までに、下記フォームからお申し込みください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSevlh1QfB6PqqzhT2CJx-59yiBa6chBB_jVzYAVcmiRK_EYPw/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0

お問合わせ：一般社団法人東アジア教育研究所事務局 office@ioeae.com

概要：このたび、陝西学前師範学院幼児教育学院教育の劉煜先生をお招きして、現代中国の幼児教育改革にみる教育の公共性の変容についてご講演いただくことになりました。2010年以降中国政府は「入園難・入園貴」（幼稚園に入るのが難しい、しかも費用が高い）という社会問題を解決するため、公益性を重んじる「普惠型幼稚園」の普及に精力的に取り組んできました。2020年までにその数は、幼稚園全体の八割を占めるほどの実績が成し遂げられました。だが、そもそも「入園難・入園貴」の問題は、マスメディアに取り上げられたような「園の量的不足」や「私立園の費用の高騰」といったことのみ由来したわけではなく、その背景には、1990年代以降学校教育のなかで急進的に進められた教育の民営化と自由化と大きく関連し、さらに教育をだれが供給・運営するか、いわゆる教育の公共性の変容がみられました。本講演では、公共性の変容という視点から「入園難・入園貴」の問題を解説し、今日幼児教育改革の目玉となった「普惠型幼稚園」の内実、とりわけそれにより提示された「教育の平等」と限界についてお話いただきます。